

2019 年度第 1 回外洋常任委員会 議事録

日 時 : 2019 年 5 月 24 日(金) 18:30-20:40

場 所 : トーヨーアサノ会議室(新宿区新宿 5-13-9 太平洋不動産新宿ビル6F)

出席者 : (理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務、平松隆、菊池邦仁、
新田肇、中村和哉、宇都光伸、橘田佳音利、作田智恵子

(委員会)

ルール委員会外洋規則小委員会委員長 大村雅一

キールボート強化委員会委員長 金子純代

国際委員会外洋小委員会 委員長 小林昇、 委員 鈴木一行

ジャパンカップ委員会、オリンピック外洋小委員会委員長 植松眞

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(順不同、敬称略) 計 16 名

議長 常務理事 坂谷 定生

記録 理 事 作田智恵子

I. 挨拶

馬場副会長より、「理事会の前日開催の本会議は、遠方からの役員にとっても参加しやすく、常任委員会としての意見の整理をするにも有意義であると思う。昨今外洋レースも盛んになりつつあり、また、オリンピックに向けたフラッグリレーも活発で、外洋からのボランティアも増えていて感謝している」との挨拶があり、その後議長として坂谷常務理事が指名され、議事に入った。

II. 議事

1. 小笠原レース 2019 について(報告):三崎 鈴木保夫

今年は、海洋環境および体験乗船会とレースの2部構成での開催だった。

① 海洋環境&体験乗船

海水を採取し、海洋大学の講師を招いて、中学校、高校、一般でセミナーを開催。
体験乗船会では学校の授業として開催された。

② レース

10 艇の参加で、7 艇完走、3 艇リタイア(1 艇=ラダー破損、2 艇=時間的なもの)
悪天候で前回より 1 日長いレースだった。

概ね事故もなく終了したが、危機管理の観点からはいくつか課題が残った。

参加艇と連絡が取れない時の SOS 発動の見極めなど。

島民から全選手に手作りのレイのプレゼントがあり、大いに盛り上がった。

10 日連休のため、小笠原への乗船券の確保が大変だった。

2. JAPAN CUP2019、2020 について:植松委員長、補足坂谷常務理事
坂谷常務理事から、福岡での合同会議に合わせて2月3日開催した、ジャパンカップ委員会の結果について報告があった。委員会では2018年度の中止を重く受け止め、最初に2017年に決定した「ジャパンカップ開催基準」を白紙とすることを決定した後協議がなされ、①諸般の事情を考慮し2019年度のジャパンカップは中止する。②このことを公表するにあたり、2020年度の開催に関し、何らかの表明を加え発表する。という2点が決議されたということであった。
報告の後、植松委員長を中心に、2019年度を中止とするに至った説明と、2020年度の取り扱いについての表明文の内容を検討し、最終的にはジャパンカップ委員会に委ねることを決定した。

3. 第60回パールレースについて:坂谷実行委員長(外洋東海)
2019、2020年の2年間、オリンピック、プレ大会等で江の島での受け入れができないため伊東フィニッシュとした。
神ノ島の南西に仮想WP、トラッキングシステムでチェックする。
コースは、島周りはなく、ストレートでフィニッシュ。
60回の記念となる大会にしたい。

4. 日本-パラオ親善レースについて:新田理事(外洋三崎)
レース委員会にてカテゴリーの変更を検討中、決定後JSAFに共同主催願を提出する。
参加艇:現在確定5艇、検討中2艇、感触として8~9艇。海外艇にも働きかけている。
救助体制については、基本保安庁の管轄であるが、海外では防衛省の管轄になる。この時の移行への指示は、保安庁から防衛省へ。ただし、要請ルートは大会運営側で防衛省への道筋を構築しておく必要があるため、すでに防衛大の監督経由で準備中。
「みらいへ」には、医者と看護師を乗船させる。
大会は、レースよりマイクロプラスチックとパラオへのOP贈呈で盛り上がっている。
パラオでマイクロプラスチックの国際会議が開催されるので、パラオが主導して行いたいとのこと。
「みらいへ」での採取し測定、パラオ側で発表、前向きに動いている。
OPの贈呈に関しては、20隻を明日発送し、6月2日到着予定。3日より神奈川県連の山本さんと齋藤さんが、インストラクターとして1か月常駐して20名の小中学生の指導に当たる。
その中から10名を選抜して日本に招待し、スタート前日に日本のOPセーラーたち(江の島、横浜等)と親善レースを開催する。

5. 2020 オフショア世界選手権について
2019年度のオフショアWH Mix 世界選手権は流れたが、2020年度は以下で公表された。
 - ① 2020年10月マルタ島にて開催
 - ② コースはロレックスミドルシーレースと共同主催の606マイル。
 - ③ L30 ワンオフ艇20艇が用意される。この20艇の選考基準は未定で、日本に枠があるかわからないが、来年に備えて、今年のロレックスミドルシーレースに参加するのは良い経験になる。
世界選手権にどうアプローチするか手を打たないと間に合わない。難しい海域なので5年で準

備できるか。現地の気象予報士やローカルセーラーの経験値も参考にしてはどうか。

日本チームの選考においては、公募か選択かを考える必要がある。公平性も大事だが、経験値から外洋オリンピック小委員会で最終的に選考するのがベストではないか。

白石康次郎はどうか。経験値のある女性はほとんどいないので可能性にかける？

2019年のロレックスシーレースを調査して、参加できるなら参加したほうが良い。

6. 2024 パリオリンピックに向けて

WS Mid-Year Conference が5月18日—19日開催されたが、種目として『オフショア WH Mix』が決定しているのみで、開催場所、艇種、距離、コース、出場資格、枠等は未定。艇種決定は、できるだけ遅くなされるべきで、候補艇のリストなどで早期に選択幅を狭めるべきではないとしている。

今後、我々としては、日本の出場枠確保のためにはロビー活動と海外レース参加が必要と思われる。

日本では検討されている300～500マイル(2泊3日～3泊4日)でのダブルハンドレース経験者が男女ともにほとんどいない。今後積極的にレースも組んで経験を積んでいく必要がある。

7. ユニバーシアード・ナポリ大会について

3月開催された「セイル・オン第8回 JYMA 選抜大学対抗の学生マッチ」において3位の東大が出場枠を得て、男子3女子2のMixチーム+コーチ2の7名で、チームジャパンとして参加することに決定した。現在西宮にてJ70で練習を行っているが、艇種は当初予定されていたJ70から4人乗りのRS21に変更になった。

8. オリンピック応援フラッグリレーについて

埋まっていなかった2か所について以下を予定。

北海道地区:小樽から時計回りで室蘭へ、これが予定通り行われると残り小樽—秋田間で、これがつながると北海道・東北がつながる。

四国ルート:瀬戸内海は西内海の金井氏にフラッグを預けている。外海(高知)ルートは座間味～宜野湾～西宮コースでつながるが、高知に立ち寄るルートがない。

最終的には、2020年に江の島入りしたい。時期や方法等を関係機関と調整し、実現させたい。

9. 外洋マイクロプラスチックへの取り組み:鈴木一行(外洋三崎)

すでに環境庁が行っている。海洋大からJSAFとの共同研究でやっていきたいとのオファーがある。同JSAF本体にこの話を持っていくか、また、持っていくとしたらどのようにするか。JSAFがNOの場合は外洋三崎で行う。環境委員会での話もあるが、求めているものが別。環境委員会での主体はビーチクリーン、外洋は海自体への取り組み。

今後の活動をどうするか？

・チラシを作ってPRする。

・小笠原での採取しているシーン、授業の様子などでビデオを作製、採取ネットが5セット有り、使いまわし可能。クラブレースなどに採取ネットを渡して協力をお願いする。

10. 艇登録関係書類のデータ電子化の件:作田艇データWG 長
3社からの合い見積りの結果、一番安い『株式会社ベーシックシステム』に決定し、発注した。
納期は6月、経費の負担は、前回の外洋団体長会議での結果を受けて、内海、東海、東京湾、三崎、三浦、湘南の6団体に願います。(次回の外洋団体長会議で確認)
11. 新建屋への事務所移転について:大村 JSAF 事務局長
移転は、評議員会後、以下日程で行われる
6月19日(水) 13時以降引越し準備のため業務停止
6月20日(木) 引越し当日のため終日業務停止
6月21日(金) 業務再開
新会館 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 902号室
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
☎ 03-6447-4881
FAX 03-6447-4882
メールアドレスは変更なし
入館時の注意事項:事前に来訪を事務局に伝える。
12. JSAFVISION 委員会について:大村 JSAF 事務局長
各加盟、特別加盟団体にメンバー選定、書類の提出をGW前に依頼、締め切りをGW明けとしたが、タイトだったためまだ出そろっていない。
13. その他
- ① 橘田理事から以下 JSAF への提案事項について。
オリンピック強化選手へのマスコミに取り上げることが多い今をチャンスとして、オリンピック選手がメディアに取り上げるときのファッションアドバイザーとしてスタイリストをつけたい、この提案はすべての女性理事のコンセンサスもとっており、どのタイミングでどのように進めたらよいかとの相談があった。
目的はセーリングファンの獲得、周知、それによる JSAF 会員の増加、セーリングがよりメジャーになるため。
状況を見ながら、理事会でオリ特委員長にも説明をして、話したらよいのではとのアドバイスがあった。
- ② 本日のニュースとして、佐賀県ヨット連盟が県の補助金と業務委託費計約2500万円を不正に受給していた問題が発覚したとの報告があった。

以上